

令和 5 年度

財務データ分析報告書

目 次

財務データ分析

集計概要-----1

1. 業種別集計-----2

広島東商工会

【集計概要】

(1) 調査目的

当会所属の小規模事業者の持続的な発展を推進するため、財務数値の増減を把握する。

(2) 集計方法

当商工会地域（安芸支所、瀬野川支所、矢野支所）の事業所に関する、確定申告、金融支援で得られた事業者の財務データを集計した。

(3) 集計結果

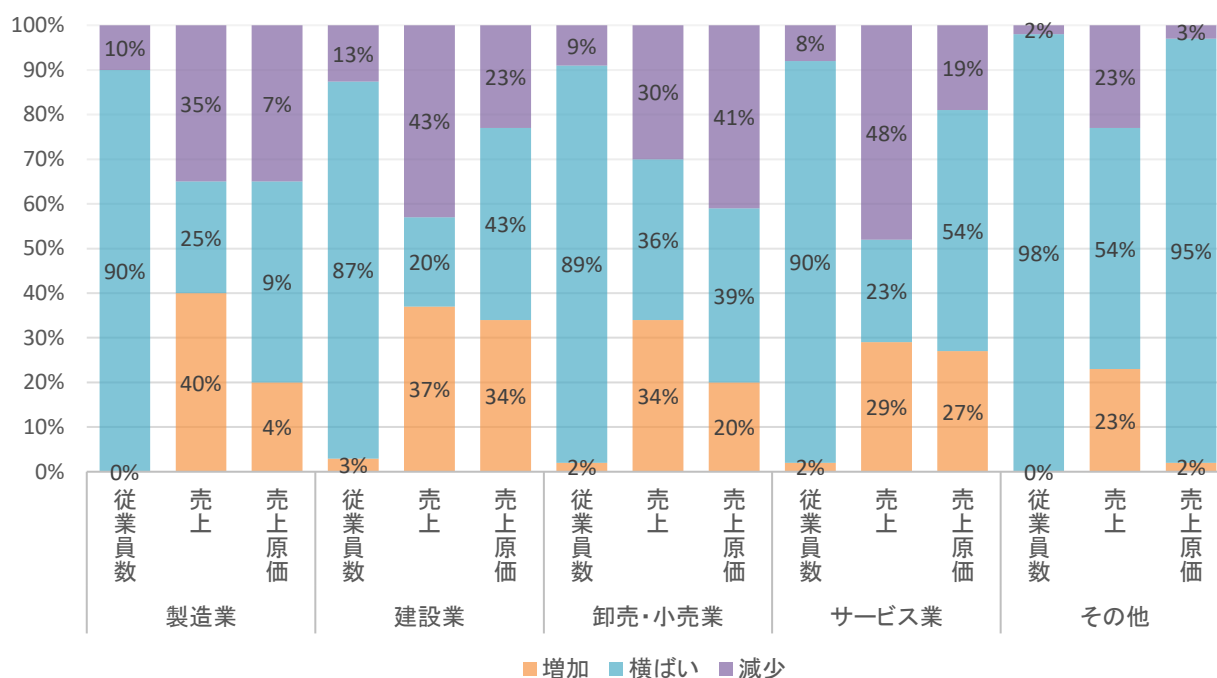
業種別件数

	製造業	建設業	小売業 卸売業	サービス業	その他	合計
計	20	103	44	164	125	456

(4) 報告書の見方

- 1) 売上高、営業利益、付加価値額について、令和4年と令和3年の数値を業種別に比較して、増減の件数を算出した。前年に比べて各数値が5%を超えて増加している場合「増加」、5%を超えて減少している場合「減少」、5%以内の増減の場合「横ばい」としている。
- 2) 売上にはコロナ関連支援金を含む雑収入が含まれている場合があるため、純粋な売上やその他項目の比較になっていないことがある。

業種別比較



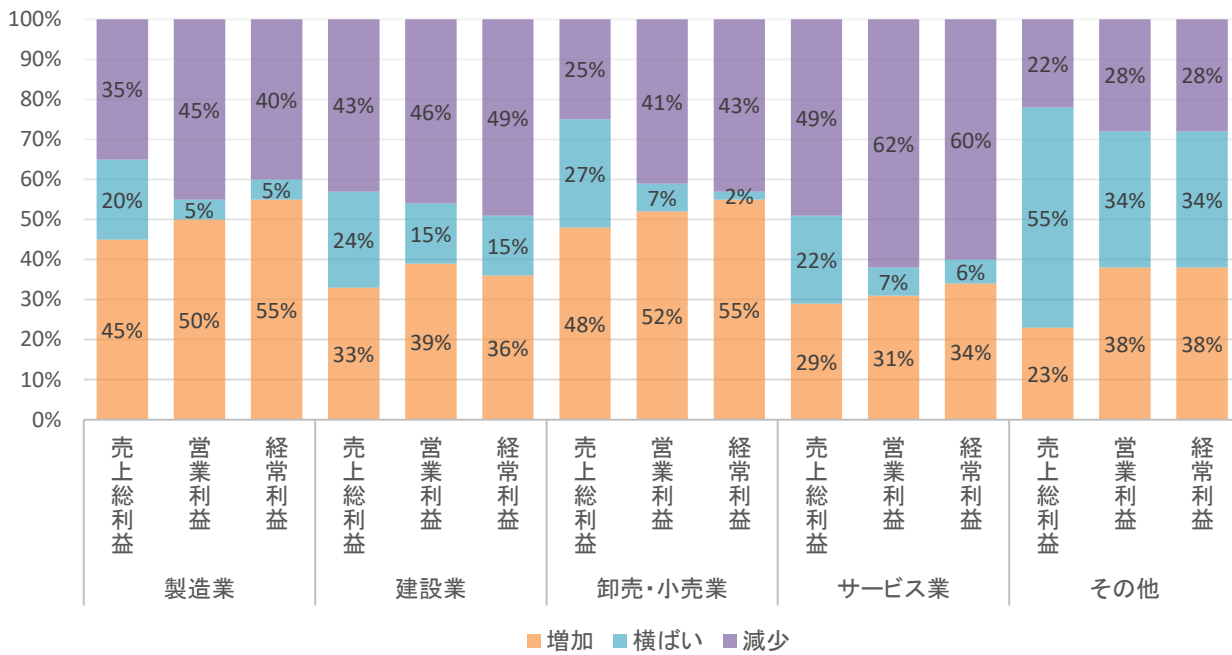
業種	件数	前年比	従業員数		売上		売上原価	
			件数	比率	件数	比率	件数	比率
製造業	20	増加	0	0%	8	40%	4	20%
		横ばい	18	90%	5	25%	9	45%
		減少	2	10%	7	35%	7	35%
建設業	103	増加	3	3%	38	37%	35	34%
		横ばい	87	84%	21	20%	44	43%
		減少	13	13%	44	43%	24	23%
卸売・小売業	44	増加	1	2%	15	34%	9	20%
		横ばい	39	89%	16	36%	17	39%
		減少	4	9%	13	30%	18	41%
サービス業	164	増加	4	2%	48	29%	45	27%
		横ばい	148	90%	38	23%	88	54%
		減少	12	8%	78	48%	31	19%
その他	125	増加	0	0%	29	23%	3	2%
		横ばい	122	98%	67	54%	118	95%
		減少	3	2%	29	23%	4	3%
	456	有効合計	456		456		456	

・従業員数の状況は全業種でほぼ横ばいであるが、建設業において13%が減少と回答しており、人手不足が深刻な状況が続いている。

・売上の状況は製造業と卸売・小売業で増加と減少が拮抗しており、事業者によって対極化している。建設業とサービス業では減少が増加を上回っており、新型コロナの影響からの回復ができていない事業者が多い。

・売上原価の状況は全ての業種で横ばいが多数となっているが、建設業は増加の割合が他業種に比較して高く、売上減少と相まって苦しい経営状況と推察できる。

業種別比較

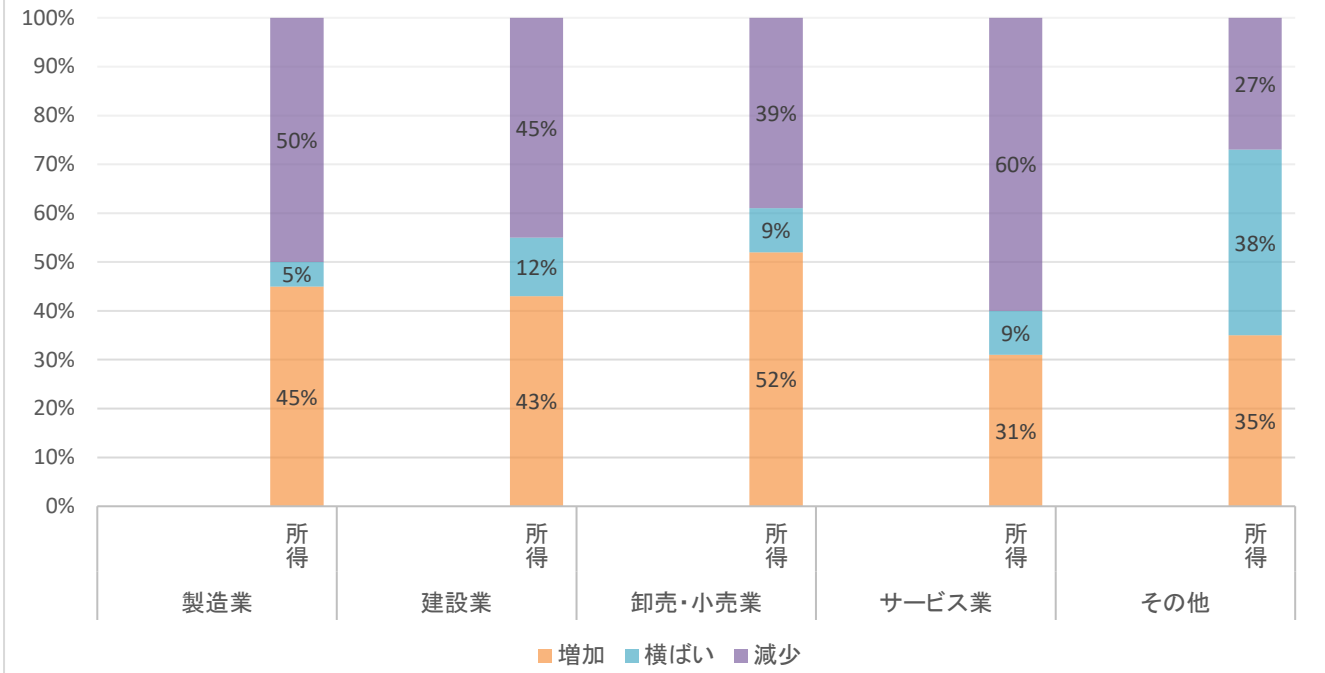


業種	件数	前年比	売上総利益		営業利益		経常利益	
			件数	比率	件数	比率	件数	比率
製造業	20	増加	9	45%	10	50%	11	55%
		横ばい	4	20%	1	5%	1	5%
		減少	7	35%	9	45%	8	40%
建設業	103	増加	34	33%	40	39%	37	36%
		横ばい	25	24%	16	15%	15	15%
		減少	44	43%	47	46%	51	49%
卸売・小売業	44	増加	21	48%	23	52%	24	55%
		横ばい	12	27%	3	7%	1	2%
		減少	11	25%	18	41%	19	43%
サービス業	164	増加	48	29%	51	31%	56	34%
		横ばい	36	22%	11	7%	10	6%
		減少	80	49%	102	62%	98	60%
その他	125	増加	29	23%	48	38%	47	38%
		横ばい	68	55%	42	34%	43	34%
		減少	28	22%	35	28%	35	28%
	456	有効合計	456		456		456	

・売上総利益、営業利益、経常利益ともに製造業と卸売・小売業は増加が減少より高く、建設業とサービス業は減少が増加より高い。

・特に建設業は、原材料費の高騰によるコスト上昇分を適切に価格転嫁できていないと推察される。

業種別比較



業種	件数	前年比	所得	
			件数	比率
製造業	20	増加	9	45%
		横ばい	1	5%
		減少	10	50%
建設業	103	増加	44	43%
		横ばい	12	12%
		減少	47	45%
卸売・小売業	44	増加	23	52%
		横ばい	4	9%
		減少	17	39%
サービス業	164	増加	52	31%
		横ばい	14	9%
		減少	98	60%
その他	125	増加	43	35%
		横ばい	48	38%
		減少	34	27%
	456	有効合計	456	

卸売・小売業やその他は増加の傾向がみられるが、サービス業は減少している事業者増加している事業者の約2倍あり厳しい状況にある。建設業・製造業の業種は増減が二極化しており、市場の変動に対する慎重な見極めが求められる。

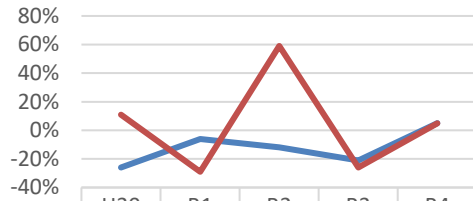
■業種ごとの経年比較

※各項目で増加割合から、減少割合を引いた数値で比較

※前年度以前から集計している売上高、営業利益を比較対象に使用

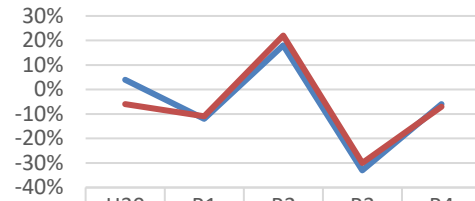
製造業	製造業は R4 年、売上は前期より 26 ポイントの増加、営業利益も 31 ポイントの増加となり、大幅な回復が見られる。需要の回復や効率向上の成果が表れていると考えられる。
建設業	建設業は R4 年、売上が前期比 27 ポイント増加し、営業利益も 23 ポイント増加となったものの、依然としてマイナス傾向が市況を圧倒している。
小売業 卸売業	卸売・小売業は R4 年、売上が前期比 30 ポイントの増加となり、営業利益も 34%のプラスとなりました。これは前期までの減少傾向からの好転を示唆する。
サービス業	サービス業は R4 年、売上が前期比 5 ポイントの減少。営業利益も 27 ポイントの減少となり、厳しい状況が続く。
その他	サービス業は R4 年、売上は前期比で横ばい。営業利益は前期比 10 ポイントの増加となり、プラス成績を示しています。需要の回復や効率向上の努力が影響している可能性がある。

製造業



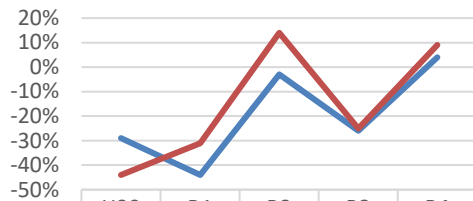
	H30	R1	R2	R3	R4
売上	-26%	-6%	-12%	-21%	5%
営業利益	11%	-29%	59%	-26%	5%

建設業



	H30	R1	R2	R3	R4
売上	4%	-12%	18%	-33%	-6%
営業利益	-6%	-11%	22%	-30%	-7%

卸売・小売業



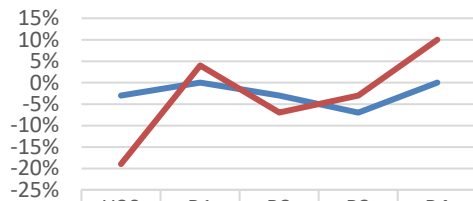
	H30	R1	R2	R3	R4
売上	-29%	-44%	-3%	-26%	4%
営業利益	-44%	-31%	14%	-25%	9%

サービス業



	H30	R1	R2	R3	R4
売上	-32%	-14%	-14%	-14%	-19%
営業利益	-27%	-11%	-11%	3%	-31%

その他



	H30	R1	R2	R3	R4
売上	-3%	0%	-3%	-7%	0%
営業利益	-19%	4%	-7%	-3%	10%